

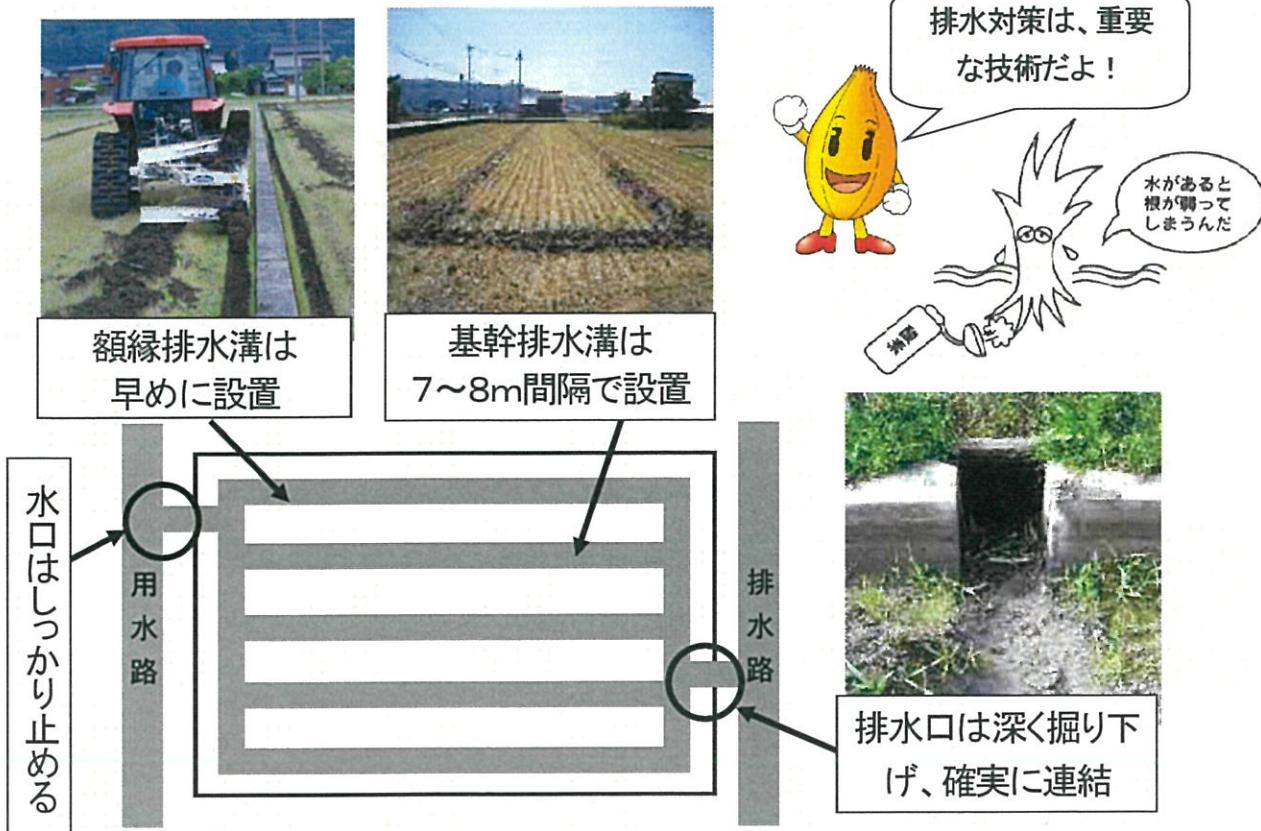
大麦管理特報

令和4年9月
魚津市
魚津市農業技術者協議会

大麦の収量・品質を確保するには、排水対策の徹底が大切です。稲刈り終了後、速やかに額縁排水溝を設置し、ほ場の乾きを促しましょう。
あわせて、石灰質資材の施用、適正な播種作業により苗立ちを確保しましょう。

1. 排水対策の徹底

- ① 額縁排水溝と長辺方向に基幹排水溝を設置しましょう。コンバインの旋回跡やトラクタの車輪跡に水がたまらないよう、ほ場が乾いた状態で行いましょう。
- ② 溝は連結し、途中で水が停滞しないように手直しを行い、排水口を深く掘り下げましょう。



2. 土壌改良資材の施用

土壤pH 6.0~6.5を確保するため、石灰質資材を必ず施用しましょう。

○石灰質資材の施用の目安

資材名	10a当たり施用量
苦土石灰	100kg
砂状ケイカル	120kg

※作付前の土壤pHが低い場合(5.5未満)は、施用量を増やしてください。

3. 種子消毒の徹底

雲形病などの発生を防ぐため、次のいずれかの方法により、種子消毒を行いましょう。

防除法	処理方法及び注意事項
薬剤粉衣	ベンレートT水和剤20を種子重量の0.5%粉衣(種子10kgに水200ml、薬剤50gを入れて均一に混和する。)
循環式催芽器	45°Cの温湯に2.5時間浸漬する。(時間厳守)

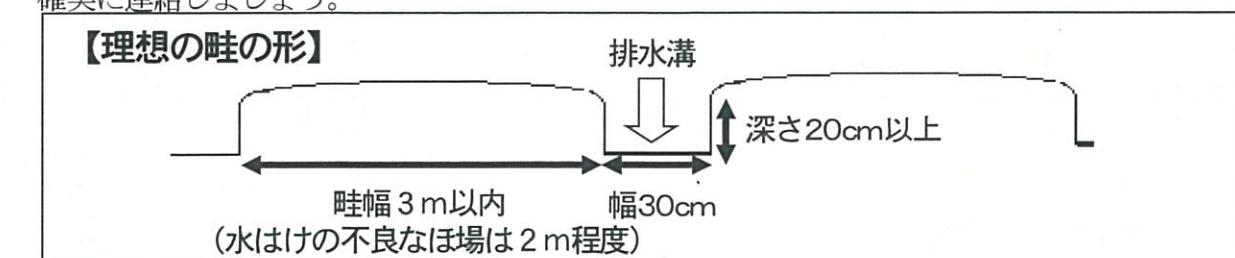
※「循環式催芽器」で温湯消毒した種子は、過湿による発芽障害を防ぐため、水をよく切って乾かす。

4. は種作業の実施

良好な出芽・苗立ちを確保するため、ほ場が乾いた状態で、施肥・耕起・は種・作溝の一連の作業は、1日で実施しましょう。

(1)耕起・畠立て

- ①耕起作業は、トラクタの速度を落として土を細かくし、碎土率60%以上を確保しましょう。乾きが悪いと土を練ってしまい、碎土率があがりません。
- ②畦幅は3m以内とし、しっかりした溝(幅30cm、深さ20cm以上)を設置して、排水口に確実に連結しましょう。



(2)は種量の厳守、適正なは種深度の確保

- ①は種量を厳守し、適正な苗立数を確保しましょう。苗立数が過剰になると茎が細くなり、品質低下の原因となります。
- ②ドリル播きのは種深度は深さ3cm程度としましょう。は種深度が深いと生育が不揃いになるとともに、湿害を受けやすくなります。

は種時期	目標苗立数 (本/m ²)	は種量(kg/10a)	
		表面散播	ドリル播
9月6半旬	140	6.5	6.0
10月上旬	150	7.0	6.5
10月中旬	200	9.0	8.5



(3)適正な基肥の施用

基肥の過剰施用は、倒伏や細麦化などによる品質低下の原因となります。右の表を目安に、地力に応じて適切な施肥量を施用しましょう。

は種様式	肥料名	10a当たり施用量
ドリル播	エコ大麦44号*	40~45kg

*5年産から肥料を変更しました。

(4)除草剤の散布(「ドリル播」のみ)

除草剤散布により初期生育を確保しましょう。

薬剤名	10a当たり散布量	散布時期
リベレーターG	4~5kg	は種後~麦2葉期
リベレーターフロアブル	60ml(希釈水量 100l)	は種後~麦3葉期